

「新しい総合事業」は地域の実情や課題に合わせて、市独自のサービスを提供できることから、既に取り組んでいる地域での見守りやサロン活動の拡大、ボランティア等の多様な担い手による支援の充実など、新たな枠組みのサービス導入にも段階的に努め、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで送ることができる地域包括ケアシステムの構築に取り組みようとしています。

これからの展望

市では、「新しい総合事業」の開始に当たり、これまで介護予防サービス（訪問介護・通所介護）を利用している要支援1・2の人やサービス提供事業者に混乱が生じないように、円滑な移行を第一としています。このため、現在のサービス利用者は、引き続き同様のサービスを受けることができます。

「新しい総合事業」

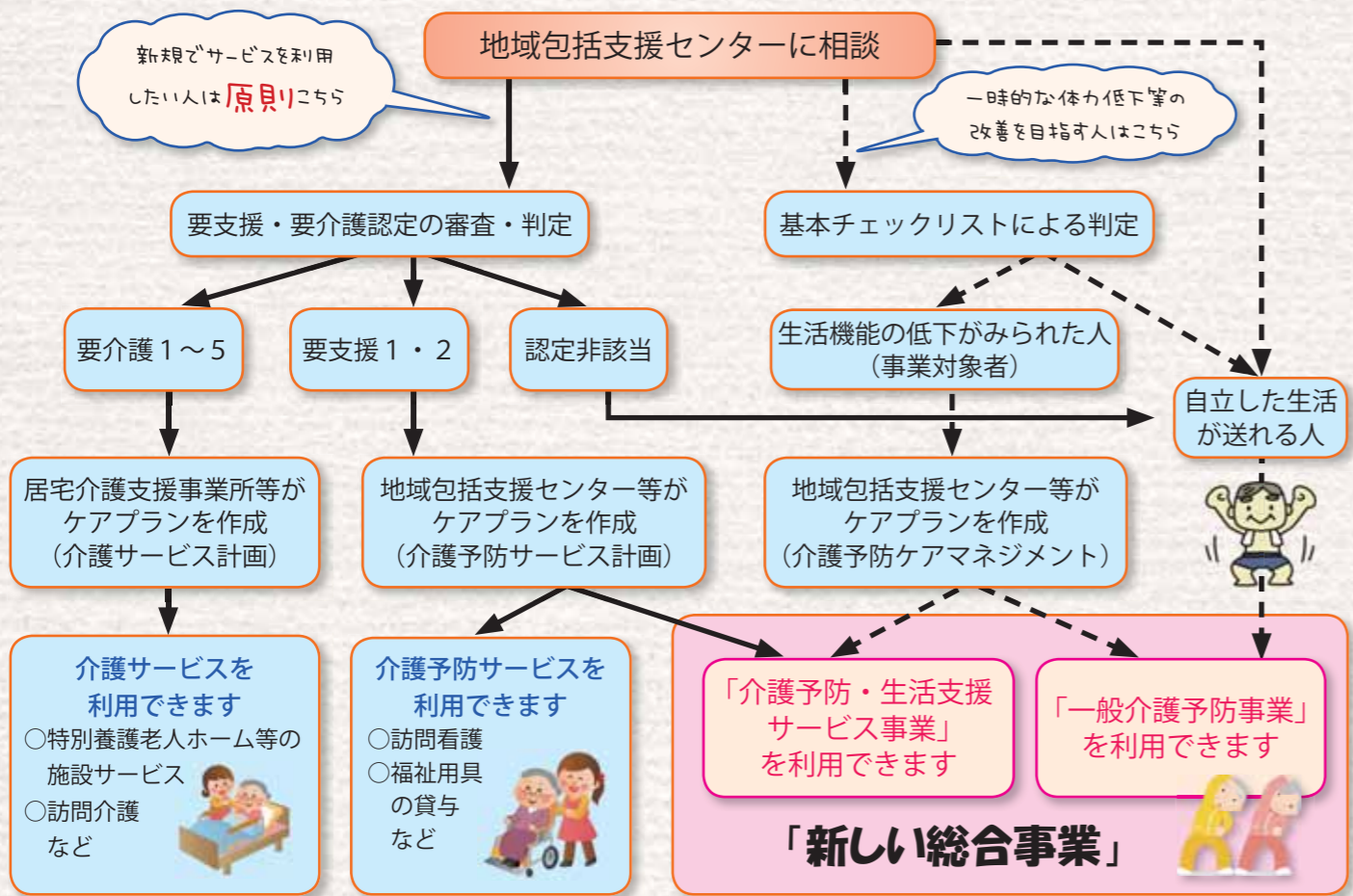
提供することが可能となります。これからは、元気な高齢者が支える側に回るなど、高齢者が生きがいを持ち、社会参加できる居場所や仕組みづくりに取り組んでいくことになります。



住み慣れた地域で自分らしく

自ら取り組む「介護予防」は今後ますます重要とされる。写真は、「元気でハッピーながのだ」の健康教室の様子

4月から始まる「新しい総合事業」の利用の流れ



「新しい総合事業」とは...

介護予防・生活支援サービス事業

- 【対象者】**
 ○要支援1・2の認定を受けた人
 ○事業対象者と判定された人
- 【内容】**
 ○ホームヘルパーによる身体介護や生活援助
 ○シルバー人材センターによる掃除・洗濯等の生活援助
 ○通所介護事業所での機能訓練や入浴、食事の介護等
 ○通所介護事業所等での機器を使用した筋力向上トレーニング
- ※いずれもケアプランに基づいたサービスです。

当分の間、現在の利用者に対するサービスに変わりはありません。

一般介護予防事業

- 【対象者】**
 ○65歳以上のすべての人
- 【内容】**
 ○高齢者が身近な場所で集える場(サロン)の開催支援
 ○サロンなど地域活動へのリハビリテーション専門職による支援
 ○一人暮らしの高齢者等に対する声かけや安否確認等を行う在宅福祉アドバイザーの配置
 ○高齢者が取り組む健康増進や介護予防、地域貢献等の活動に対するポイント付与
 ○ぴんぴん元気教室(介護予防を目的とした体操や講話、レクリエーション等の教室)の開催



ぴんぴん元気教室

介護人材不足の深刻化の懸念

今年2月、鹿児島県は、平成28年10月1日現在の年齢別推計人口調査で、県の高齢化率が初めて30%を超えたと発表しました。鹿児島市は全国平均と同水準の約28%でしたが、今後も高齢化の傾向は変わらず、一人暮らしや認知症の高齢者も増えることが予想されます。その一方で、地域社会を支える働き盛りの人口は減少傾向にあり、このままでは介護保険料が増加するだけでなく、介護人材が不足することも予想されます。

自分で介護予防に取り組めるように

このような状況の中、地域全体で高齢者を支える仕組みづくりが求められています。平成28年度、市内の高齢者に実施したアンケート結果では、8割以上の高齢者が現在の住居に住み続けたいと回答しました。住み慣れた地域で高齢者が自立した生活を送るためには、自ら健康づくりや介護予防に取り組む「互助」が重要となります。「新しい総合事業」では、これまでの全国一律の介護サービスを、地域の実情や課題に合わせて、市独自のサービスとして、

平成29年4月から「介護予防・日常生活支援総合事業」(以下、「新しい総合事業」)が開始されます。この事業は、高齢者等の多様な生活支援のニーズに地域全体で応えていくため、これまでと同様のサービスに加え、多様な担い手による新しいサービスを提供するものです。今回は、この「新しい総合事業」について紹介します。

市高齢福祉課地域包括ケア推進室
 ☎0994-311175



「元気でハッピーながのだ」
 代表 上拂辰雄さん (永野町)

高齢者でも自分たちで健康を守り、周囲を支える側にもなれます!

永野田は高齢者が多い町内会なので、高齢であっても元気であれば、不自由な人を手助けしてあげることが大切だと思います。そのためにも自分たちが健康であることが大事です。私たちのグループでは、平成19年度から、毎月、健康教室を開催し、メンバーそれぞれが健康管理に心掛けています。自分の健康は自分で守り、介護を予防するという意識が無いと、結局は自分に降りかかってきます。健康寿命を延ばし、病院に入る期間をできるだけ短くしようと呼びかけているのです。また、健康な内にできることをやろうと、メンバーで情報を共有し、外出が不自由な人の話相手になったり、見守り活動を行ったりもしています。健康づくりがコミュニケーションにもつながることを改めて実感しています。